イスラエル・ユダヤ・中東がわかる隔月刊雑誌

みるとす

No.184
10
2022

❖インタビュー

日本とイスラエルの可能性

オスナット・ラウトマン

❖知っておきたい中東・イスラム

ツタンカーメンと新博物館

光永光翼

刺しゅう作品を撮影して制作した絵本

10 月の新刊

歌えないことりといのちの木

B5 判・上製 48 頁　定価 2200 円

刺しゅう・文　マカベアリス

ミルトス

みるとす

No.184
10
2022

ミルトスはイスラエルに育つ低木。
常緑でその葉は芳香を放ち不死と
成功の象徴とされた。（イザヤ 41:19）

中東・イスラエル情報

■イスラエル並びにユダヤ人に関するノート■
ウクライナ戦争の激化とロシアのユダヤ人 ――― 佐藤　優　5

■日本の非常識からみた中東の非常識■
新しい親ユダヤ団体 ――― 滝川義人　14

■イスラエル　多角多論■
ミュンヘンオリンピック事件から 50 年 ――― 齋藤真言　18

■日本・イスラエル　コラボレーションの道■
日野自動車と REE のコラボレーションを支えた ミリオンステップス ――― 新井　均　26

■インタビュー■
日本とイスラエルの可能性 ――― オスナット・ラウトマン　32

聖書・歴史

●サムエル記講話●
ダビデとヨナタンの別れ ――― ラビ・ベニー・ラウ　50

●目からウロコの新約聖書●
現代ギリシア語で読む新約聖書（4） ――― 藤原豊樹　56

●一つの神と三つの宗教●
イスラーム――誤解される宗教 ――― 塩尻和子　60

エッセイ

▲イスラエル御馳走帖▲
レモンチキンタジン ――― 越出水月　39

▲聖書の世界　エッセイ▲
秋 ――― 池田　裕　42

▲知っておきたい中東・イスラム▲
ツタンカーメンと新博物館 ――― 光永光翼　70

表紙の絵：「この場所はなんと恐ろしいのか。ここは神の家だ」（ベテル、創 28:17）【画・藤井克之】

ユダヤのユーモア　4　**ブックレビュー**　74　**シネマレビュー**　78
声のひろば　80　**編集後記**　82

イスラエル並びにユダヤ人に関するノート 90

ウクライナ戦争の激化とロシアのユダヤ人

佐藤　優

〔撮影：森清〕

ロシア側の認識に変化の兆候

Z君、9月上旬（主に6日から10日頃）のウクライナ軍の攻勢によってハルキウ州の大部分がウクライナの実効支配下に入ることになりました。本件については日本のマスメディアも大きく報じていますが、そのほとんどがウクライナ、米英発の情報で、ロシア側の見方は伝えられていません。

私は今回のウクライナ軍の攻勢について、ロシア発の様々な情報を集め分析していますが、近くクレムリン（ロシア大統領府）が現在展開している特別軍事作戦の概念自体を変更するとの感触を得ました。今回のウクライナ軍の攻勢は米軍との協力で可能になったというのがロシアの認識で、米国民に対して「あなたたちも紛争の当事者である」という認識を持たせるような対抗措置について考え始めています。

政治学者カザコフ氏との対話

私は本件に関して9月14日、テレビ電話でロシアの政治学者アレクサンドル・カザコフ氏と話し合いました。カザコフ氏は与党「公正ロシア」幹部会員（非議員）で2014～18年、ザハルチェンコ「ドネツク人民共和国」首長の顧

日本の非常識からみた中東の非常識

新しい親ユダヤ団体

――日本とユダヤの奇妙な共通点を語る人々

滝川義人

○新団体の主張

昨年6月下旬、「ヤマト・ユダヤ友好協会」という団体が設立され、今年7月23日には、「第1回シャローム・フォーラム」と称する会合が開かれた。

ロケット開発で知られる故糸川英夫博士の遺訓を継ぐ組織であるという。糸川博士と言えば、1980年代に「日本・テクニオン協会」を設立した人物として知られる。イスラエル大使公邸で話をされたことがあり、筆者は英語による講演を拝聴した者の1人である。イスラエルとの交流に関する内容で、実に理路整然としたお話であった。

その糸川博士の遺訓を継ぐという友好協会は、設立趣意書で、次のように主張している。

＊

建国以来2千有余年続く世界で最も古い王国であるヤマト。国を失い2千年も逆境をくぐり抜けて再び建国したユダヤ。この二つの民族はアジアの東と西の端に位置するが、5つの共通点があります。

第一に、髪が黒いということ。ゲルマン、アングロサクソンは概して金髪である。第二に、背が低くがに股である。第三は、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語と違いヘブライ語は右から、日本語は下から以外どちらからでも書ける。第四は、イエスキリストを神としない。第五は、芸術、文化等あらゆる分野において優秀であると歴史が証明していること。

ヤマト人がユダヤ人同様、他民族から嫌われる条件にありながらも滅ぼされず、植民地支配もされなかったのは、極東の離れ小島に住んでいたからだという理由と、ヤマトが天皇のシラス国であるからだと言えよ

イスラエル多角多論 51

ミュンヘンオリンピック事件から50年

齋藤真言

遺族との和解

1972年に開催されたミュンヘンオリンピックでイスラエル人アスリート11名が殺害され、今年で50年になった。記念日となる今年の9月5日に追悼式典が行なわれ、ドイツのシュタインマイヤー大統領は演説で次のように語った。

「ミュンヘンオリンピックでのイスラエル代表選手団に対する保護の不徹底、およびその後の不明瞭な対応に対し、この国の元首として、ドイツ連邦共和国の名でお詫びを申し上げる。……かつてホロコーストを引き起こしたドイツに対し、イスラエル選手とその家族から寄せられた信頼に私たちは答えることができなかった。……あのテロ事件から何十年もの間、沈黙と断絶が続き、半世紀が経過した今日もなお多くの疑問に答えているとは言い難い」

ドイツ南部のフュルステンフェルトブルック空軍基地で開催された追悼50周年式典において、当時の警備の不備とその後の不誠実な対応に対して謝罪の意を表明し、公の場で初めてドイツの責任を認めた。

続いてイスラエルのヘルツォグ大統領が、シュタインマイヤー大統領の勇気ある謝罪発言に敬意を表し、次のように語った。

「殺害された彼らはイスラエル人、ユダヤ人であるという理由だけでパレスチナのテロ組織によって冷酷かつ残酷に殺害された。……これは私たちのみならず、世界的な悲劇である。……テロに対して、いつどこであっても団結と決意をもって積極的に戦わなければならないことを、世界は決して忘れてはならない」

この追悼式典はシュタインマイヤー大統領のイニシアチブで2年前から準備が進められてきたが、直前までイスラエルの大統領や遺族らが参

●日本・イスラエル　コラボレーションの道●

5

日野自動車とREEのコラボレーションを支えたミリオンステップス

新井　均

一口に「コラボレーション」と言っても中味は様々だ。ビジネスのフェーズによって技術提携、共同研究開発、生産委託・受託、販売提携、資本提携など、多種多様な協業の仕方がある。ここ数年で日本とイスラエル企業の間で様々な協力関係が生まれているが、現段階では日本企業からイスラエルのスタートアップへの投資、有望なイスラエル技術・ソリューションを日本企業が販売代理を行なうといった事例が主流だろう。

そんな中でも、PoC（＝概念実証、新しい概念や原理が実現可能なことを示す簡単な試行）を実施して技術検証を行なった後に共同開発するという、より深い協力段階に進んでいる事例の1つが、今回紹介する日野自動車とREEというイスラエル企業とのプロジェクトである。そして両者を繋ぎ、その協業を日本企業側からサポートしているのがミリオンステップスというコンサルティング企業である。地理的に離れ文化も異なる国の企業同士が協力関係を構築するには、双方を理解しているミリオンステップスのようなコンサルティング会社の役割は決して小さくない。

あらい　ひとし●1955年東京生まれ。早稲田大学大学院理工学研究科電気工学専攻、MITスローンスクールMOTプログラム修了。NTTで表示デバイスの研究開発に従事後、外資系企業でのマネジメント経験を経て2007年に起業。著書『世界のエリートはなぜ「イスラエル」に注目するのか』（東洋経済新報社）、訳書『ISRAELIのビジネス文化』（ミルトス）がある。

▼インタビュー▲

日本とイスラエルの可能性

オスナット・ラウトマン

《INTERVIEW》

【編集部より】弊社より先月上梓した新刊『ISRAELI（イスラエル人）のビジネス文化』の著者オスナット・ラウトマン氏のインタビューをお届けする。本書では、イスラエル人の視点からイスラエル人との上手な付き合い方を提案している。

▼それぞれが独自の文化▲

――本書を書こうと思った動機は何ですか。

オスナット　すべては私がイスラエルからアメリカに移住した時に始まりました。顧客に対してどのように振る舞い、どんなサービスを提供し、どのように販売を促進し、会話の際にはどのようなことに気をつけるべきなのか等々、企業コンサルタントとして社員に助言するのが私の役割でした。

　イスラエルと同じように働き始めたのですが、アメリカでは私のやり方は受け入れられず通用しませんでした。それで私は研究を始めたんです。世界各国の人に取材して、イスラエル人についてどう思うか質問しました。その数は数百人に及んだのですが、私が思っていた以上に文化の壁は大きなものでした。

　私はかつてエルアル・イスラエル航空のCAとして働き、世界を飛び回ってきた経験があります。あらゆる文化を見てきましたし、文化の壁についても認識しているつもりでした。けれども、その国を訪問することと、その地で働いて生きていくことは全く違いました。

　この研究を通して、私の体験したことの意味を深めることができました。イスラエル人自身は、他の文化圏の人からどのように見られているか全く意識していません。それでイ

טָאגִ'ין עוֹף לִימוֹן

イスラエル御馳走帖

59

レモンチキンタジン

越出水月

❖ レモンの島からのお誘い

今年の8月、国産レモン発祥の地であり日本のレモン生産量1位の広島県生口島（いくちしま）から誘いがあり、1週間、中東料理の店を営業してきた。

無農薬無肥料の「自然農」レモンを栽培する農家さんが営むシェアキッチンでのイベントだったので、何かレモンを使った料理を、とメニューを考えて向かった。

❖ レモンを多用する中東料理

イスラエルを中心とする環地中海地域はレモンを多用するので、あれもこれも作りたいものはたくさんあった。サラダだって、味付けはレモン果汁や塩レモンを使うし、ひよこ豆のペースト「フムス」や茄子のペースト「ババガヌーシュ」にも、いつもレモンが入っている。

一説によると、酢は醸造過程でアルコールが発生してしまうこともあるのでイスラム教徒が避けたため、中東地域の料理は酢ではなくレモン果汁を酸味に使うようになったらしい。その説はもっともだが、レモン栽培に適した土地で

生口島のレモン畑
今はグリーンレモンの季節

聖書の世界 エッセイ

秋

池田 裕

●桐一葉（ひとは）

残暑厳しい9月の午後の日差しを浴びながら道を歩いていたとき、突如、背後でバサッという音がした。思わず振りかえって見ると、並木のプラタナスの大きな枯れ葉が一枚落ちていた。私の住んでいる市の街路樹には銀杏（いちょう）、楓（かえで）、ハナミズキの他、道幅のより広いところでは北米原産のユリノキ、プラタナス、モミジバフウなどが植えられている。プラタナスやユリノキが日本で最初に街路樹として用いられたのは明治期、モミジバフウは大正になってからである。

目の前の並木のプラタナスの葉はどれもまだ青々と生い茂っているのに、一葉だけが早々と枯れて落ちて来たのだ。枯れ落ちた一葉は身を丸めるようにして風に吹かれるまま路上をからからと転がってゆく。そして、秋がすでに来ていることを告げ知らせようとしている。

その早い通知者の役割を、プラタナスやユリノキが日本に来るずっと前から果たしていたのは梧桐（あおぎり）の葉である。梧桐は中国・東南アジア原産の高木で、材は柔軟、耐火性があり吸湿性もあるので、古くから高級家具の桐（きり）

いけだ ゆたか●旧満州生まれ。青山学院大学大学院博士課程修了。1969～77年エルサレム・ヘブライ大学大学院留学、博士過程修了（Ph.D.）。現在、筑波大学名誉教授、中近東文化センター附属三笠宮記念図書館館長。著書に『旧約聖書の世界』（岩波現代文庫）、『海はワイン色』（教文館）、『死海文書Q&A』『聖書と自然と日本の心』（共にミルトス）ほか多数。

929
תנך ביחד

サムエル記講話

《サムエル記上20章》

ダビデとヨナタンの別れ

ベニー・ラウ
（那須雄二 訳）

הרב בני לאו

●父と友との板挟み

前章では、サムエルもダビデもサウルも皆ラマのナヨトにいたところで終わりました。衣服や装飾品などあらゆる外なるものを脱ぎ捨て、皆が神の霊に満たされました。サウルも預言者の群れの中にいました。ダビデはサムエルと共に一夜を過ごして霊に満たされ、サウルの前から逃亡するのに備えました。この先、ダビデは再びサウルのいる王宮に戻ることはありませんでした。

20章は42節もある長い章で、サウルがダビデを亡き者にしようと本当に企んでいるのかを確かめるため、ある作戦を実行した様子が描かれています。物語の前後関係を見ると、この話はダビデが逃亡する19章の前に起きた出来事ではないかという説もあります。

この章の最も大切なポイントは、サウルの殺意を調べること自体ではなく、愛し合っていた2人の別れにあります。ダビデの魂に結びつき、自分の魂のように愛していたヨナタン（18・1）は、ここでダビデとしばらく別れることになります。

20章は大きく2つのパートに分けられます。23節までの前半は、サウルがダビデを殺そうとしているのかどうか調べる計画をダビデがヨナタンに話す場面で、24節以降の後半でその計画を実行に移します。最初の舞台は王宮ですが、それから2人は野原へ出て行きます。その後ヨナタンは王宮に戻ってサウルと話し、再び野原へ行ってダビデと会います。自分の父親と愛する友との間で板挟みになっているヨナタンの姿が描かれています。

目から ウロコ の新約聖書

7

現代ギリシア語で読む新約聖書（4）

藤原豊樹

○2度振り向いたマリア

アテネの自宅からアクロポリスに向かって散歩に出かけると、角にστρόφι〈ストロフィ〉という名前のレストランがありました。ストロフィとは「回転、曲がること」の意味で、文字どおりそこを左に曲がると、間もなくパルテノン神殿の屋根の一部が見えてきます。ネットで確認すると、今ではこの店はすっかり改装されてモダンな建物になっていました。

新約聖書にストロフィの用例はありませんが、動詞 στρέφω〈ストレフォ〉「回転させる、方向を変える」はよく使われています。例えば、イエス・キリストが十字架に掛けられた時のことです。墓に葬られると、すぐそこにやって来たマリアは、空虚な墓を見て呆然となり、立ったままで泣いていました。その様子をヨハネは次のように記しています（聖書の引用は新共同訳、傍点は筆者）。

14（マリアは）こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。15イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」16イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

（ヨハネ20・14～16）

一つの神と三つの宗教 8

イスラーム——誤解される宗教

塩尻和子

最後のアブラハムの宗教

イスラームは、共通の祖アブラハムに由来する宗教として、ユダヤ教、キリスト教と同一の「セム的」伝統を持つ兄弟宗教である。

近年までイスラーム地域内では教育、文化、金融業などの担い手としてユダヤ教徒、キリスト教徒が活躍した。現在でも中東地域にはキリスト教徒も多く住む。ユダヤ教徒とは長年にわたる「父祖伝来の仇敵同士」であるという表現は、一種の反イスラームの標語として今日でも用いられることがあるが、歴史的にも宗教的にも根拠がない表現である。実際に1948年のイスラエルの建国まで中東地域一帯では、ユダヤ教徒との平和的共存が続いていた。（この件については「みるとす」22年2月号73頁に掲載した市川裕先生のご意見を参照されたい。）

イスラームでは、ユダヤ教徒とキリスト教徒を神が啓示した同種の聖典を持つものとして「啓典の民」と呼び、イスラームの支配地域では一定の税金（人頭税、ジズヤ）を科して信教、居住、職業、移動の自由を保障し、「保護民」とした。イスラーム支配地域の税金としては、その他に、土地を持つ全住民に課す地税（ハラージュ）があり、土地を所有する「啓典の民」は、人頭税と地税の両方を払う義務があった。

初期イスラームの急速な拡大の理由としては、イスラームの支配が、当時のビザンティン帝国の支配に比べて政治的な抑圧が少なく、税金の率も低かったということが挙げられる。また前述のように信教の自由を認めており、宗派間の論争（特に三

知っておきたい中東・イスラム 29

ツタンカーメンと新博物館

光永光翼

世紀の発見

エジプトでは、ツタンカーメンの秘宝が発見されて100年という記念日を迎えようとしている。1922年11月4日、イギリスの考古学者ハワード・カーターが南部ルクソールの「王家の谷」から偶然発見したのは、古代エジプトの王のリストにはほとんど記録がない、わずか18歳という若さで亡くなった無名の少年王「ツタンカーメン」の墓であった。その中に隠されていたのは、黄金のマスクをはじめとする約2千点の豪華絢爛な副葬品である。しかも墓はほぼ無傷の状態で、中の財宝も略奪されることなく、3300年前の当時のままの姿で発見された

古代エジプトには約90人のファラオ（王）が記録されているが、すべての墓が盗掘に遭っている。墓内の黄金や宝で覆われた無数の副葬品は長い歴史の間にどこかへ持ち去られ、荒らされ、わずかに石棺と壁画のみが空しく残されている。そんな中、ファラオの墓がそのままの状態で発見されるという奇跡が起きたのである。20世紀最大の歴史的な発見と言われ、そのニュースは世界に報じられた。

黄金の品々

副葬品の1つである黄金のマスクは1965年、上野の東京国立博物館に来日して人々を熱狂させた。その熱狂ぶりはイギリスのビートルズや中国のパンダに勝るとも劣らず、風雨が吹きつける生憎の天気にもかかわらず、午前9時の開館を前に徹夜組も含めて1200人の長蛇の列ができた。51日間の会期中に129万人もの来場者がマスクを見ようと博物館に詰めかけ、遠いエジプトの歴史に思いを馳せた。

ツタンカーメンの墓で発見され

○ ギャラリー イスラエルの風 が贈る今月の一枚 ○

「ベトシャンの遺跡」　撮影・平岡真一郎

ベトシャンはダビデ王の時代にイスラエルの領地となった由緒ある街である。ヘレニズム時代はスキトポリス、ローマ帝国時代にはデカポリスの１つとして栄えた。イエス時代にはガリラヤ地方にあるローマ駐屯都市として最大規模を誇った。当時を偲ばせる列柱の街並みが再現されていて、遺跡とは思えない美しさがある。

★手漉き和紙にプリントした、絵画のような独特な風合いをもつ作品です★

サイズ　38×45㎝　⇨19,800円

制作元：ギャラリー「イスラエルの風」
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-18-24

お問合せは
ミルトスへ

みるとす　2022年10月号　第184号

発行　株式会社ミルトス　〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町1-13-4　4階

定価650円（本体591円）

9月の新刊

イスラエル人 ISRAELIのビジネス文化

A5判・並製 156頁　定価 1980円

オスナット・ラウトマン〔著〕
新井 均〔訳〕

本誌 32頁に
著者インタビュー掲載

イスラエル人の特徴を表す
7つの要素を徹底分析！

- I　Informal
  《形式張らない》
- S　Straightforward
  《単刀直入な》
- R　Risk-taking
  《リスクを取る》
- A　Ambitious
  《野心的な》
- E　Entrepreneurial
  《起業家精神にあふれた》
- L　Loud
  《声が大きい》
- I　Improvisational
  《即興的な》

デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザリー 推薦！

建国からわずか70余年、日本の四国ほどの国土しかなく、人口が900万人程度のイスラエルが、なぜ「スタートアップ大国」になれたのか。またそう呼ばれるまでにこの国を伸し上げた人たちの活力はどこからきているのか。本書はその謎に迫っている。《「推薦の言葉」より》

次々とイノベーションを生み出すイスラエル人とはどういう人たちなのか。イスラエル人である著者がそのバックグラウンドやメンタリティーを丁寧に解説し、円滑な人間関係構築の方法を伝授する！

雑誌 89063-10